

留学をして

農学部 田辺大貴

〈留学の理由・目的〉

僕は、一般の人も農業に参加することができ、自然や生命を感じられたり、「生きる」ということについて改めて見つめるきっかけとなる農業をしたいと考えています。そこで、化学肥料や農薬などの使用をなるべく控え、家畜が排泄した糞を肥料として利用するなど自然の営みを利用して農産物の生産を行う「循環型農業」と、普段は都市に暮らす人が休日などに農村を訪れ農作業を体験する、観光業と農業を組み合わせた「アグリツーリズム」について、経営の仕方や実際の現場での知識や技術を学ぶためにそれらが普及しているとされるヨーロッパ地域(ドイツ・オーストリア)へ留学しました。

〈留学の内容〉

3 か所の現地の農場でインターンシップを行い、畜舎の清掃や給餌、若齢期の家畜(雛鳥、子牛など)のお世話や獣医さんの補助、放牧地の整備・修繕、食鳥処理をはじめとする作業を通して主に家畜の飼養に関すること全般について学びました。

〈留学してよかったこと〉

今回の留学を通して、解像度が上がったと思います。それまではインターネットなどに載っている情報を頼りに頭の中で想像するだけに留まっていたものが、実際に現地へ行って、自分の目で見て、耳で聞いて、手を動かして感じ、リアルを知ることができたのはとても良かったです。具体的にどのような経験をしたかということもそうですが、事前に調べたり情報収集をし自分のなかでイメージしたうえで実際に現地に行き、自分の想像と現実の間にあるギャップを埋める作業をするという流れとして経験できたことが自分の人生においては大きなことだったように思います。また、インターネットや文献などには載っていない、現地に足を運んで実際に経験してみなければわからないようなことを知れたり、実際に現地にいることで文化や風土、その土地の雰囲気、歴史などを知り、それを踏まえたうえで自分の留学のテーマに関して「なぜ? どうして?」という問いを立てることができたのも良かったです。

そして、専門分野においても自分がいかに未熟であるかということを感じられたのも良かったですと思っています。現地の農場の方のお話を聞いていると一度学んでいても忘れてしまっている、あるいは知らないということが結構あり、専門分野やそれに関連する事柄への学びに対する詰め甘さを痛感させられました。また、スキルや経験がないがゆえにやらせてもらえることが限定されてしまい、もどかしい思いをすることもありました。しかし、そういった経験を通して「自分は何を学ぶべきなのか」「どんなことを知りたいのか・学びたいのか」「どんなスキルが必要なのか」「どんな経験を積んでおくとよいのか」といったことが

渡航前よりもはっきりし、これからの学びや研究ひいては生活していくうえでの糧になったように思います。

〈トビタテで留学してよかったこと〉

一つは、海外への行き方の引き出しを増やせることが挙げられると思います。同期のみならず先輩も含め多様なテーマで、様々な国・地域へ、色々な形で留学したトビタテ生がたくさんいます。また、トビタテでの留学を終えてからも個人で留学をしたり、社会人になってからでも仕事や進学、観光など様々な目的で海外へ行っている人も珍しくありません。多くのトビタテ生とつながることで自分が知らなかったり思いつかないような方法や選択肢が追加され、トビタテの留学へ行く前でも行った後でも、「海外へ行きたい！」となった際にどうにかしてそれを実現することがしやすくなるのではないかと思います。そして、多くはないかもしれませんが、テーマや分野が同じだったり近い同期や先輩と出会い、同じ温度感で話すことができたり、相談したり似たような悩みを共有できたりするのもトビタテの良さかと思えます。

〈最後に〉

正直なことをお話すると、今回の留学では期間が大幅に短縮となったり、実際に現地に行ってみると渡航前に自分が思い描いていたものとは違っていたりと、計画の面でも目的の面でも自分の想定通りにいかなかったことが多くありました。しかし、「留学になんて行かなければよかった」という感情はまったくなく、行ってよかったと思っています。トビタテには日本を離れてたくさんのいろいろな経験をしてきた先輩や同期がいて、「トビタテの期間だけでは答えは得られなかった」「留学をしたことで、逆にわからなくなった」「社会に出てもわからなくて、ずっと問い続けている」といったように、きれいにまとまらなかった人も多くいます。いろいろなトビタテ生との出会いがあって、それぞれの経験談や考えを聞いたというのも、今回の自分のうまくいかなかった経験を否定せずにいられた一つの要因かと思えます。「わかる、そういうことあるよね」といった実際に現地に行ったことのある人でないとわからない感覚を共有できて、否定しない空気感があり、「無理にきれいにやろうとしなくてもいいんだ」とカードを心に持ちながら海外への挑戦ができるのもトビタテの良さかなと思えます。

そして、今回の留学だけで自分のテーマ(目的)について明確な答えを得られたとは思っていません。「体験により『生』を感じることでできる農業で人を元気に！日本を元気に！！」というのが留学のテーマでしたが、これは人生のテーマでもあります。トビタテの留学には一区切りつきましたが、僕はこのテーマについて問い続けます。大学を卒業した後は一度社会へ出る予定ですが、自分の見たい景色・実現したい世界・社会を追い求めて必ず再び海外へ行くと思います。僕の留学は、これからも続きます。



実習に来ていた現地の大学生と見習い生と一緒に鶏舎の除糞作業をした際の写真



一緒に働いた現地の見習い生と大学生



生まれて間もない子牛の状態を確認している様子